

第7回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）の報告

第7回若手会夏の学校実行委員会*

「第7回気象学会夏の特別セミナー（若手会夏の学校）」は、1995年7月30日（日）～8月1日（火）の2泊3日の日程で、静岡県田方郡函南町の富士箱根ランドにて、東京大学と高知大学が幹事となり開催しました。

前回のこのような集まり（冬の学校）から半年しかたっており、また日程的に観測、就職活動に重なる時期であり、さらに週のはじめで特に社会人の方には仕事を休みにくい状況にもかかわらず、参加者は90名にも達しました。

今回は「我々が創る気象学の未来」を統一テーマに掲げ、夏の学校の趣旨である「若手研究者の討論、情報交換および交流の場」をいかすことを目標として行ないました。

夏の学校は、東京大学気候システム研究センター住明正教授による「気象学の今後について」の講演で幕が開きました。話は、気象学とはどんな学問であったかという問いかけからはじまり、気象学と人間・社会とのかかわりや、自然現象とのかかわりなどについてまで内容が及びました。最後の方は、学生に向けてのメッセージが主になり、学生たちを叱咤激励して終わりました。

ポスターセッションは、今回、できるだけ多くの人が発表できるようにし、最終的に参加者の4割弱にあたる34名もの発表がありました。内容も学会発表のようなものから中間発表や方針発表、その他夏の学校ならではの発表もあり、活発な議論が交わされ会場は常に活気に満ちていました。

グループ討論会は「気候と環境」、「降水系の階層構造と大気の水循環」、「観測と理論」、「熱帯と中高緯度は貴ノ花と曙か?」、「気象と社会、私そして未来」の5つに分かれ、それぞれ15～20人で討論が行われました。全体として、非常に限られた時間内でグループ内の全員の意見を交換するのは容易ではなく、進行役を引き受けて頂いた方々には大変御苦労頂きました。しかし各グループとも活発な意見の交換がなされたようであり、今後さらに議論をしたり各個人がいろいろ考える上でのきっかけとして、またお互いをより良く知る機会として意義のあるものでした。

またこれらの他に、おなじみの研究室紹介や、レクレーションとしてソフトボールやハイキングを行ないました。

今回の開催については京都大学の方々が幹事を引き受けて下さいました。予定では、8月上旬に京都で開かれるとのことでした。詳しいことは『天気』などでお知らせがあります。次回も多数の方々が参加され、皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

最後になりましたが、今回の開催にあたっては気象学会には大変お世話になり、また資金の援助をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

* 西村照幸・可知美佐子・小高正嗣・河本和明・久保田尚之・鈴木英一・對馬洋子・和田浩治・赤井靖雄・片桐秀一郎・滝川雅之・中村恵子・松山志保・渡部雅浩（東京大学気候システム研究センター）、江守正多（東京大学教養学部）、梶原誠・岡谷隆基（東京大学地理学教室）、大内和良・小林護・那須野智江・宇都宮正・高木征弘・野田口真也（東京大学地球惑星物理学教室）、鈴木真一（東京大学海洋研究所）、鼎信次郎（東京大学生産研究所）、山崎育正・山本泰久（高知大学物理学教室）